



新学期という節目は、子どもを再登校につなげる大きな転機！

「子どもが、学校に登校しやすくなる環境」を整える

あと2か月ほどで、新学期がやってきます。

「4月からは、学校に行ってみようかな、行ってみたいな。」

と、多くの子どもたちが希望や期待をふくらませはじめているのでは、・・・と思います。



しかし、もし、新しいクラスの中に、

「この人と同じクラスになるのは、絶対にイヤ！」という同級生がいたら、その時点で、学校への登校に、ストップがかかってしまうでしょう。

ですから、新学期が始まるまでに、

「子どもが、学校に登校しやすくなる環境」を整えておくことが、とても大事なのです。新学期に向けての学校の準備は、2月の中・下旬からに始まるので、・・・子どもの希望や要望は、それまでに、学校へ伝えておく必要があります。

◆ 「学校に登校しやすくなる環境」を整える中心役は、・・・誰？

「子どもが、学校に登校しやすくなる環境」を整えることを、「環境調整」と言います。誰が中心になって進めるかと言えば、それは、**保護者**です。と言いますか、保護者が中心になって進めなければ、「環境調整」はできません。

「環境調整」には、子どもの様子やねらいによって、多様な方法が考えられますが、今回のクローバーだよりでは、・・・

「子どもが、登校しやすくなるクラス編成」について考えてみます。



実際、保護者と学校が

「子どもが、登校しやすくなるクラス編成」について、丁寧に話し合いを進めることで、心理的に不安定で不登校傾向だった子どもや、長い期間、不登校だった子どもが、新学期から再登校を始めたという事例は、いくつもあります。

◆「子どもが、登校しやすくなる“クラス編成”」のポイントは、**人間関係!**

子どもの発達科学研究所は、文科省の委託を受け、「不登校の要因」について調査研究を行い、令和6年3月に、その結果を公表しました。
(注1)

同調査では、・・・

不登校児童生徒の**26.2%**、保護者の**29.2%**が、「**いじめ被害**」が不登校の要因と回答しています。この調査結果をもとにすると、・・・

不登校児童生徒の4人に1人は、「いじめ被害」が不登校の要因ということになります。

教師との関係においては、例えば、・・・

不登校児童生徒の**35.9%**、その保護者の**44.7%**が、「**教職員への反抗・反発**」が不登校の要因と回答しています。この結果をもとにすると、・・・

不登校児童生徒の3人に1人は、教師との関係が不登校の要因ということになります。



以上の結果からも分かるように、

「子どもが、登校しやすくなる“クラス編成”」を進めるときの重要ポイントは、ズバリ、・・・**人間関係の調整**と言ってよいと思います。

◆「子どもが、登校しやすくなる“クラス編成”」を、どのように進めていくのか？

当たり前のことですが、例えば、・・・

子どもの気持ちや考えが反映されないクラス編成を進めても、効果は期待できません。

「子どもが、登校しやすくなる“クラス編成”」は、保護者と学校が、ていねいに話し合いを進めながらやっていく訳ですが、その進め方には、・・・**基本的な原則や手順、留意すべき事項**があります。

その進め方を、以下、**3つのステップ**に整理していますので、取り組んでみようと思われる保護者さんには、・・・どうか参考にしてください。

★ステップ1 新しい「クラス編成」について、子どもの希望や要望を聞く。

- ・「新しいクラスのことで、学校に、お願いしたいことはない？」
- ・「一緒のクラスになりたい（なりたくない）友だちはいる？」
- ・「担任になってほしい（なってほしくない）先生は、ある？」



- * 聞くときの**雰囲気**や**タイミング**が、とても重要になってきます。
子どもの気持ちが安定しているとき、表情がやわらいるときなどが better です。
- * 子どもの希望は1つとは限りません。
希望する訳があれば、それもていねいに聞きいておくと、「環境調整」に役立ちます。

★ステップ2 子どもから聞いた希望や要望を、学校（校長）に伝える。

- ・「あなたの希望は、学校に伝えておいてもいい？」
- * 学校に、希望や要望を伝える前には、必ず**子どもの了解**をとっておきます。
保護者だけで、勝手に動いてはいけません。
- * 希望は、**校長に、直接**、伝えます。担任、主任、教頭では、いけません。
学校運営に関する全ての権限をもっているのは、・・・校長だからです。
- * 新しいクラス編成が始まる**2月中・下旬**までに、伝えておきます。

★ステップ3 クラス編成の希望を校長に伝えたことを、子どもに伝えておく。

- * 校長が回答した内容があれば、それも子どもに伝えておきます。
- * 「お父さんたちはここまで頑張ったのだから、4月からは学校に行ってね」
・・・などと言ってはいけません。
登校しようとする行動に、ブレーキがかかってしまうからです。
- * 「学校に行ってほしい」という雰囲気を漂わせるのも悪影響です。
保護者は、これを無意識のうちにやっていることがよくあるので、
・・・**注意**が必要です。
- * 「あなたの気持ちが叶うと、**イイね**」といった**共感的な話し方**は、
・・・good です。



◆まずは、子どもの希望や要望を、聞くことから、・・・

ここまでお伝えしてきた「**環境調整**」以外に、
登校への**妨げ**になりそうな問題があるかも知れません。
例えば、・・・



学校を休んでいた間の「**学習のおくれ**」

* 新学期から登校しても、学習で分からないことが出てくると、不安や緊張が高まります。
そのため、何日か登校できていても、また学校に行けなくなることがあります。

部活動の先輩や同級生、顧問の先生との「**人間関係**」

* 部活動の人間関係が不登校の要因になっているケースは結構多く、・・・
部活動内の人間関係への対応（調整）が必要となってくることは、よくあります。

集団的な行動から感じる「**不安やストレス**」

* 不登校の子どもは、人がたくさん集まる場所や、集団行動が苦手な傾向にあります。
* 例えば、始業式、入学式、学年集会、学校行事などは、しばらくの間、・・・
ムリに参加しなくてもよいという約束にしておくことも、場合によっては必要です。

このような登校の妨げとなりそうな問題にも、
「**環境調整**」の手が加わっていくと、新学期からの安定した登校へとつながります。

保護者の皆さんには、

まずは、子どもさんの心としっかり向かい合い、・・・

新学期への希望や要望を、丁寧に聞くことから、始めてみていただきたいと思います。

文責 西村明倫 不登校カウンセリング&セラピー「クローバー」代表
公益社団法人日本心理学会認定心理士、心理カウンセラー
一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト

参考文献等

注1 文部科学省委託事業「不登校の要因分析に関する調査研究 結果の概要」
文部科学省 令和6年3月公表